

2004年11月11日

沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課

港湾環境技術指導官 酒井洋一様

課長 赤倉康寛様

沖縄県土木建築部港湾課

課長 小渡良彦様

泡瀬干潟を守る連絡会

共同代表 内間秀太郎 小橋川共男 漆谷克秀



リュウキュウアマモの繁殖期の工事中止についての要請

11月8日(月)、愛媛大学助手、海草専門家・金本自由生氏が、リュウキュウアマモの雄花の花芽の新芽を埋立予定地・マリーナ予定地近くで発見しました。これは、同氏が2年前、与那城町の海中道路の北海域で発見して以来、国内で2例目です。

リュウキュウアマモの繁殖は、主に地下茎の伸長による栄養繁殖によるもので、種子による繁殖は、これまで国内・沖縄では確認されておらず、金本氏の与那城、泡瀬でのこの発見は、種子の形成、種子による繁殖が11月頃に行われていることを示す、貴重な発見といえます。

リュウキュウアマモ、リュウキュウスガモ、ボウバアマモ、ベニアマモなどの大型海草は環境省の準絶滅危惧種(NC)に指定されており、泡瀬海域では埋立によって消滅するこれらの海草藻場25haを移植によって保全するとしています。しかし、その保全のための移植実験、手植による移植は成功しておらず、同海域での大型海草の保全は今後の大きな課題になっています。

このような状況の中で、種子による繁殖が11月以降に行われていることの確認は、極めて貴重であり、発見者の海草の専門家の金本氏が「この時期の海上工事について差し控えるべきである」としていることは、海草の保全の立場から重要な提言といえます。

つきましては、下記の要請を行います。ご高配をお願いいたします。

記

1. 工事予定地周辺海域でのリュウキュウアマモ等の種子による繁殖に関する調査を早急に行うこと。
2. 同海域における汚濁防止膜の展張工事、海上工事を一時中断すること。
3. 移植による海草保全の技術が確立するまで、海上工事は中止すること。

以上